



俳句ゆめクラブ会報

2021年6月29日

第 133 号

このところ朝刊を開くと一面の大見出しの次に新型

コロナの感染状況を見るのが習慣となつてしまった。

身近の事も気になるので埼玉県版で蓮田市の感染者数を
確認してほつしたりありあつたため息ついたり。

これから何年もマスク生活が続くのでは、などと思
つたりして梅雨も相まって鬱陶しいことである。

今日は1名欠席の12名参加、兼題は「薄暑」であ
つた。

〔句会〕県活201号室 13時～15時

梅田先生の句

少年となりし目元や薄暑光

古代蓮浄土のごとき日の溢れ

かつと目を見開く仁王青嵐

梅田先生選

《特選》

跪き礎(いしじ)と語る沖繩忌

髪を切り身の軽くなる薄暑かな

梅雨晴れや二頭産まれしパンダの子

雷光は空切り裂きて雨を呼び

梅雨寒や義兄(あに)追ふごとく義姉(あね)の逝く

月あかりひとり占めして片白草

八千代幸男

浅見法子

岡田時雄

岩松忠子

吉澤愛子

大井昭子

武蔵野の雨にうるほひ七変化

都会にも風の道あり夏燕

紫陽花や堂に一札雨宿り

いかづちの去りたる空や茜さす

《入選》

カメムシを窓から逃す薄暑かな

改札を出れば家路夕薄暑

傾ける路面電車や街薄暑

高速路車に迫る青嶺かな

歩きつつ日陰を探す薄暑かな

庭石に動かぬ蜥蜴目のぎよるり

峠道一枚はおる薄暑かな

自転車や風にさらはれ夏帽子

晩酌の何をさておき冷奴

高齢者行き交ふ平日登山道

心地よき参道の風夕薄暑

軽やかにミュールの女性街薄暑

トムとジェリー猫に追はれし青とかげ

梅雨の庭おもちやのシャベル置き忘れ

色褪せる紫陽花寺の絵天井

矢車草和装美人の立ち姿

夏蝶を嫌ひしごとく追ふ農婦

牧の牛つつじ平の風涼し

今朝晴れて葉の間にきらり枇杷熟るる

六地藏奥より経や夏至の朝

有村 弘

岩松忠子

小林健一郎

吉澤愛子

老三人コロナ談義や昼薄暑

梅雨に入る黄色き傘の波の子等

様々な家様々な四葩かな

参道は風の抜けみち夕薄暑

常温の酒酌み交はす薄暑かな

風立ちて薄暑の窪み鳥の立つ

宮島昭夫

瀬戸川公子

浅見法子

有村 弘

小林健一郎

瀬戸川公子

互選

跪き礎(いしじ)と語る沖繩忌

古代蓮浄土のごとき日の溢れ

髪を切り身の軽くなる薄暑かな

雷光は空切り裂きて雨を呼び

都会にも風の道あり夏燕

いかづちの去りて中空茜さす

様々な家様々な四葩かな

(8票)

(4票)

(3票)

(3票)

(6票)

(4票)

(3票)

八千代幸男

梅田ひろし

浅見法子

岩松忠子

岩松忠子

吉澤愛子

浅見法子

〔決定事項・連絡事項〕

・次回句会 7月27日(火) 13時より

県活205号室(※ 当番:有村、小林)

兼題「白南風(しろはえ)」

他に自由題で二句、合計三句提出のこと。

本日は12名出席

(欠席・大井(投句あり))

(小林健一郎記)